



めざせ！やさしさ日本代表！
かわさきパラムーブメント

かわさきパラムーブメント第2期推進ビジョンの策定に向けて

1. 第2期推進ビジョンの骨子イメージ

第1期推進ビジョン

1. かわさきパラムーブメント推進ビジョンについて
策定の目的と社会的背景
2. 東京2020大会に向けた本市の基本方向と取組の考え方
(1)かわさきパラムーブメントについて
(2)推進ビジョンの取組期間について
3. 第1期推進期間（2016年度～2017年度）の主な取組
4. かわさきパラムーブメント推進フォーラムの取組
(1)かわさきパラムーブメント推進フォーラムについて
(2)プロジェクトづくりに向けた取組

見直しの考え方

- ・パラムーブメントによって何を目指し、どのような理念のもとに取り組むのかを明確化
- ・レガシー(未来への贈り物)とその考え方の明確化
- ・実態に即した取組期間の見直し など

第2期推進ビジョン

1. 策定の目的
2. 社会的背景
3. 第1期ビジョンの総括
4. かわさきパラムーブメントによって目指すもの
5. かわさきパラムーブメントの理念
6. 第2期推進ビジョンの取組期間
7. レガシー(未来への贈り物)とその考え方
8. レガシー形成に向けた取組
※かわさきパラムーブメント推進フォーラムの取組を含む

2. 「かわさきパラムーブメントによって目指すもの」と「かわさきパラムーブメントの理念」

第1期推進ビジョン

第1期推進ビジョンでは、「かわさきパラムーブメント～その背景と目指すもの～」として次のとおり掲げている

- **将来の課題を先取りする**
(略)。高齢化の進行に伴い、心身に障害を持つ人や介護が必要な人が増えることが想定されますが、持続可能なまちづくりを進めるためには、人口減少社会を見据え、一人ひとりが尊重され、能力を発揮することができる環境づくりを進めていくことがとても重要になります。
- **パラリンピックに重点を置くということ**
パラリンピックは大会を追うごとに参加国とその選手の数が増えていると言われています。このパラリンピックを未来につながるダイバーシティ（多様性）とインクルージョン（さまざまな人が自分らしく社会の中に混ざり合えること）の象徴と捉え、パラリンピックに重点を置くという方針を打ち出しました。
- **「かわさきパラムーブメント」から市制100周年へ**
そこから生まれたのが「かわさきパラムーブメント」の理念です。パラリンピックを応援することにとどまらず、障害のある人が生き生きと暮らす上での障壁となっている、私たちの意識や社会環境のバリアを取り除くことや新しい技術でこれらの課題に立ち向かうことを「ムーブメント」としてさまざまな分野で展開していくことを目指しています。
- **「かわさきパラムーブメント」の5つの方向性(省略)**

見直しの考え方

- 第1期ビジョンでは、「目指すもの＝理念」となっているためその整理を行う。
- ・何のためにパラムーブメントを推進するのかという目的を「目指すもの（ビジョン）」として整理する。
 - ・「目指すもの」の実現に向けた、パラムーブメントの基本的な考え方を「理念」として整理する。

※理念＝事業・計画などの根底にある根本的な考え方(広辞苑)

第2期推進ビジョン

■かわさきパラムーブメントによって目指すもの 誰もが自分らしく暮らし、自己実現を目指す地域づくり

- ・人口減少、少子高齢、低経済成長の時代にあって、誰もが自分らしく暮らし、さらに自分の個性や能力などに応じて自己実現を図り、その結果、社会の一員として活躍できる社会を目指す。
- ・そのために、障害、年齢、人種、LGBTなどの個性をチャンスと捉え、新たな価値を創造していくというビジョンを市民全員が共有し、主体的に行動することを促していく。

■かわさきパラムーブメントの理念

人々の意識や社会環境のバリアを取り除き、誰もが社会参加できる環境を創出すること

- ・障害者をはじめ、いわゆる社会的マイノリティとされている人たちが、生き生きと暮らす上での障壁となっている、私たちの意識や社会環境のバリアを取り除くことや新しい技術でこれらの課題に立ち向かい、誰もが社会参加できる環境(＝機会の平等)を創出することを理念とする。
- ・本市では多くの市民の興味・関心を惹く強力なコンテンツである東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、ダイバーシティとインクルージョンの象徴としてのパラリンピックに重点を置いた取組によりムーブメントをおこしていく。

3. レガシーの整理について

<基本的な考え方>

- ・「かわさきパラムーブメントによって目指すもの」と「かわさきパラムーブメントの理念」を踏まえ、現在のレガシーの整理統合等を行う。
- ・レガシーは、大きく「パラムーブメント自体の推進によるレガシー」と「大会の価値を活用した課題の解決によるレガシー」の2つとする。
- ・あわせて可能な限り年限付きの数値目標を設定するが、数値目標は、達成に向けてチーム全員が取り組み続けるための指標としての位置付けとする。

4. 取組期間について

第1期(‘16～’17)
開催につなげる取組期間

第2期(‘18～’19)
大会を成功させる取組期間

第3期(‘20～’21)
未来につなげる取組期間

- 課題①：かわさきパラムーブメントは、東京2020大会を契機として本市の課題に取り組むものであり、大会の成功そのものを目的とはしていないにもかかわらず、3つのフェーズは大会の開催が強く意識されている。
- 課題②：取組期間が2年ごとのため、第3期ビジョン策定の際に総合計画実施計画策定のスケジュールと合わず、事業調整が困難になることが想定される。

第1期(‘16～’17)
開催につなげる取組期間

第2期(‘18～’21)
チームで実践する取組期間

未来につなげる取組期間

